

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

(1) 大阪府の発生動向

- 夜間滞在人口は緊急事態措置解除により拡大しているが、**7日間新規陽性者数は依然、減少**。
- 陽性者の年代割合は、40代未満が減少し、**60代以上の割合が2割程度**と、60代以上へのワクチン接種が本格的に進む以前と同程度の水準。
- 新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の人数は、直近2週間でやや増加。

(2) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- 12歳以上の人口に占める2回ワクチン接種済の割合は、**約8割**。(11/22にVRSダッシュボードよりダウンロードした数値)。
- **60代以上新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に陽性となった者は54.1%**。
ワクチンによる感染・発症予防効果の低減の可能性がある(各研究結果において重症化予防効果は継続するとされている)。
- **ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2回接種後14日以降の陽性者の方が低い**。

(3) 医療提供体制の状況

- 重症・軽症中等症病床使用率も低い水準を維持。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 今月末を目途に、概ね希望者へのワクチン接種が完了見込み。
ワクチンや中和抗体薬による重症化予防効果が期待され、今後、経口薬等の利用が可能となれば、入院を必要とする者の減少が見込まれ、医療現場への負荷も軽減することが期待される。
一方で、
 - ・新規陽性者の中でもワクチンや治療薬の効果により軽症者の割合が多くなることが予想されること
 - ・60代以上新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に陽性となった者は54.1%と増加。今後、ブレークスルー感染がさらに発生する可能性があり、**早期にワクチンを接種した高齢者の軽症中等症病床への入院が多くなる可能性があること**
 - ・**感染規模の拡大に伴い重症者数も増加すること**から、**医療ひっ迫が生じない水準に感染を抑えることが必要。**
- **また、イギリスやドイツなど、ワクチン接種が進んでいる国において感染が拡大し、重症者数も感染拡大に伴い一定増加。**
背景として、ワクチンの感染・発症予防効果の低減や気温の変化（寒さ）、行動緩和などの可能性が想定。
各国では、行動の再規制に加え（イギリスを除く）、追加接種（3回目接種）の推進により感染抑制策を講じている。
- 日本においては、11月19日の基本的対処方針に基づき、ワクチン・検査パッケージ等を活用した**行動制限の緩和がなされることや、冬の到来により屋内での活動の増加や密閉空間が生じやすく、忘年会、クリスマスやお正月休みなどの恒例行事により、社会経済活動の活発化が想定される。**
- **これら各国の感染拡大状況や、大阪府の第三波（後半）がクリスマス前後から始まり、年明けに感染が急拡大したことを踏まえ、年末年始に向けて行動制限の緩和は慎重に行い、感染の急速な再拡大を防ぐことが必要。**
引き続き、こまめな換気の実施や適度な保湿など一層の感染防止対策が求められるとともに、飲食の場面における感染リスクを減らすため、**飲食時以外はマスク着用の徹底が必要である。**
- 府としては、今後の感染拡大に備え、病床や宿泊療養施設の確保や初期治療の充実等による重症化予防の推進など、**医療療養体制の充実を図るとともに、国の方針に基づき、追加接種（3回目接種）に向けた準備をすすめる。**